

尼同教 60年

尼同教の結成とその後の取組 ⑧

尼崎市人権・同和教育研究協議会 副会長 三澤 雅俊

前号に引き続いて、尼同教のあゆみを今回は「尼同教50周年記念誌」で執筆していただいた小餅谷信行さんの「40周年から50周年まで」をもとに振り返ってみたいと思います。今回は、専門部の活動のつづきです。

(2) 小学校教育部

年間活動のテーマとして、同和教育の本質を踏まえ、あらゆる人権問題の解消への確かな力を育成するために、教育実践の充実と深化に努めることと、自らの人権意識を高めると共に、子どもたちに確かな人権意識を身に付けさせ、自己実現を支援する授業の創造に努めることを掲げ、市内6行政区の研究会を中心に実践研究を行っています。

また、各校におきましては、学校全体の教育活動を通し、人権意識や自立向上の精神、思いやりの心を育てています。さらに、人権週間には参観や講演会等を開くなど、保護者や地域の人たちへの啓発活動を計画実施し、それらの成果を部会などで意見交流や情報交換を行いました。

阪同教研究大会や尼同教実践研究大会等で代表校の報告をもとにさらに課題を追求し、同和教育を基盤に据えた部会活動を推進します。

(3) 中学校教育部

人権尊重の精神を基盤として、市内各中学校で手話教室、アイマスク体験教室、点字教室、車椅子体験教室など福祉体験学習を取り入れる学校がだんだん増えています。これも部会で教育実践事例や課題について意見交換を行った結果が反映されてきた部分が多いのではないかと思います。

阪同教研究大会では昭和中学校が、尼同教実践研究大会では小園中学校が学校の取り組みを発表し、多くの方々と意見交流及び討議を行いました。

年度末には、各校の実践を「人権・同和教育の取り組み」としてまとめ、今後の人権・同和教育の推進に役立てたいと思います。

(4) 進路保障部

本年度も「差別を克服する学力を高め、進路を保障する取り組みをどのように進めていくか」という活動テーマで部会活動を行いました。昨年度までは、年2回の進路追跡調査を実施し、データをもとにして、意見交換を行っていましたが、今年度は調査の方法を見直すということで、追跡調査の実施は取りやめました。来年度につきましては、どのような観点で調査・実施していくかは検討中です。

今後とも、中学校卒業後の卒業生の生活が充実したものとなるように、中学校の進路指導を行う必要があります。これからさらなる取り組みを重ねていきたいと考えています。

(次号に続く)

人権・ひとこと

父の遺品に心動かされ、コザ中学校のある沖縄市を訪ねた。遺品は「肝苦りさ(ちむぐりさ)」と題された、沖縄米軍事故遺族たちの長い闘いという新聞記事の綴り(1996年神戸新聞)。

その中で、1952年、教え子Hくんが米軍のトラックによる轢殺という父の辛い経験を知った。運転していた軍属は無罪で帰国。校長先生とクビを覚悟で沖縄での戦後初めての人権をめぐる住民集会を呼びかけたという。父が終生、沖縄に心を残していた理由を理解した。

有刺鉄線が張られたフェンスが続く嘉手納基地、10分間で4回、軍用機の轟音を聞いた。ご健在の教え子Yさんから戦後のコザの話や、沖縄市戦後文化資料展示館に行った。資料を読みながら、戦争は人権問題を生み出すと痛感しつつ、基地と共に生きる日々の暮らしを想像した。

行って出会う、観て聴いて、語って感じ、わかることがある。そんな経験の積み重ねで、自分の中の思い込みや偏見に気づいていくのかも、様々な人権課題にも思いが至った。

2013年の「沖縄慰霊の日」に朗読された小学一年生の書いた詩が2014年「へいわってすてきだね」という絵本になった。以来、ハチドリの一ひとしずくかもしれないが、絵本の読み聞かせを介して人と繋がり、平和の種をまくことができたらと思っています。

絵本セラピスト®/元社会教育指導員 谷田 五沙子

編集後記

113号をお届けします。2・3面人権イラストマップは日常生活にひそむ人権について考える手立てが、優しいタッチで分かりやすく描かれていて、手に取りやすくなっていますので、さまざまな場で活用していただきたいものです。

6月16日に、長年尼同教活動に大きく貢献されてきた山居淳さんがご逝去されました。

山居さんは人権を優しい言葉で伝える名人でした。「人権学習に定年はないんやで」というこの言葉を、人権活動に携わる方々にお伝えしたいと思います。この場をお借りしてご冥福をお祈りいたします。

編集委員 山本 育子 守永 貴美恵
西川 達也 宮下 邦雄

会員募集中

尼同教では、団体会員・個人会員ともに随時募集しています。

★お気軽に事務局までご連絡ください★



第113号 2022.9

発行 尼崎市人権・同和教育研究協議会
〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 社会教育課内
TEL/06-4950-0405 FAX/06-4950-5658
E-mail/ama-syakaikyoku@city.amagasaki.hyogo.jp

定期総会

5月24日(火)、尼崎市教育・障害福祉センター視聴覚室にて2022(令和4)年度定期総会を実施しました。全ての議案について、尼崎市人権・同和教育研究協議会規約第14条に基づき、議決権を有する会員(団体理事及び代議員219名)の過半数の承認をもって可決されました。

2022(令和4)年度 役員・専門部長

- 会長 … 寺岡 陽子(個人会員)
- 副会長・社会教育部長 … 長澤 健祐(部落解放同盟塚口支部)
- 副会長・PTA部長 … 橋本 達夫(尼崎市PTA連合会)
- 副会長 … 山本 育子(尼崎ユネスコ協会)
- 副会長 … 三澤 雅俊(個人会員)
- 副会長 … 能登 誠二(個人会員)
- 会計 … 山田 実(尼崎市社会福祉協議会小田支部)
- 就学前教育部長(保) … 室谷 廣子(今北保育所)
- 就学前教育部長(幼) … 谷澤 三千起(長洲幼稚園)
- 小学校教育部長 … 足立 靖(武庫庄小学校)
- 中学校教育部長 … 嶋名 雅之(大庄北中学校)
- 高等学校教育部長 … 森田 光彦(尼崎小田高等学校)
- 会計監査 … 桜井 克典(尼崎市立小学校長会)
- 会計監査 … 嶋名 雅之(尼崎市立中学校長会)

人権・同和教育推進大会

【DVD「一人になる」視聴研修会】

6月16日(木)、尼崎市教育・障害福祉センター視聴覚室にて人権・同和教育推進大会を実施しました。今年度は、DVD視聴研修として、ハンセン病問題をテーマにしたドキュメンタリー「一人になる」を視聴しました。尼同教会員や職場研修、また、チラシやホームページを見てこられた一般の方など、たくさんの方にご参加いただき有意義な研修となりました。

参加者アンケートより

- ・誤った認識で政策がすすめられることが恐ろしいと思った。「なかったこと」にしてしまわず、歴史を学ぶことは重要だと思った。
- ・国の政策がハンセン病患者の方に、病気だけでなく、それ以外の苦しみを生んだことがわかった。難しいことではあるが、一人ひとりが正しい判断ができるようになればならないと思った。
- ・次の世代へ引き継がなければならないと思います。



CONTENTS

もくじ

- ・あまがさき人権イラストマップ
- ・「尼同教の結成とその後の取組⑧」…尼同教 副会長 三澤 雅俊さん
- ・「人権・ひとこと」… 絵本セラピスト®/元社会教育指導員 谷田 五沙子さん

… 尼同教だよりのバックナンバーをご覧ください ……
尼崎市HP トップページ > くらし・手続き > はたらく・人権・男女共同参画 > 人権 > 尼崎市人権・同和教育研究協議会

